

第 76 回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 1997 年 12 月 2 日（火）10:30～11:00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員、依田委員  
（事務局等）伊藤原子力調査室長  
池本専門委員  
森口動力炉開発課長  
動力炉開発課 平尾、遠藤、山口  
原子力調査室 新井

4. 議 題

- （1）高速増殖炉懇談会報告書について
- （2）その他

5. 配布資料

- 資料 1-1 高速増殖炉研究開発の在り方
- 資料 1-2 高速増殖炉懇談会報告書案に関するご意見と回答（抜粋）
- 資料 2 第 74 回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）高速増殖炉懇談会報告書について

標記の件について、事務局より本報告書案に関するご意見と回答の中から、原子力委員会等に報告すべき事項及び検討事項について、資料 1-2 に基づき説明があった。

これに対し、委員より、

（実証炉及び実用炉の時期的目標について）

- ・ 一般的に言えば、長期的かつ基本的方針が明確な場合には、むしろオプションの幅を広げるとの考えから、目標時期を示すことは馴染まないが、一方、要索技術的なものについては、ある程度、中期的な目標を設定する方がよいのではないか
- ・ 委員会が目標時期の設定にどれだけ関与すべきかは、技術の開発主体が誰かによる。ただし、技術の継承の重要性は理解
- ・ スケジュールの頑直性については、反省すべき点はあるが「柔軟」という言葉が開発関係者に不安を与えているのも事実であり、実用化に向けた技術課題を明らかにして計画的に進めることが重要
- ・ 目標、計画の具体的表し方に工夫が必要。特に民間が主体の計画については、委員会が時期的目標にどこまで責任をとれるかという問題がある

（外部評価の制度について）

- ・ 科学技術会議において検討された「国の研究開発全般に共通する評価の実施方針の在り方についての大綱的指針」を基本とし、原子力委員会として具体案を考えていく

（教育問題について）

- ・ 次世代層だけではなく現世代に対しての情報提供も重要。教育界に対する情報提供やその中のリーダーへの働きかけなど、体系的情報提供の仕組みが重要

- ・情報提供については、複数の原子力関係の団体が個別に行っているが、実効が上がってないのが実情ではないか。今後、体系的な仕組みを作ることが必要
- ・エネルギー問題、環境問題などベースとなるものに対する理解が先行していないと、原子力の問題も理解されにくい

## (2) 議事録の確認

事務局作成の資料2第74回原子力委員会臨時会議議事録(案)が了承された。

また、事務局より、次回は12月5日(金)に臨時会議を10:30から開催する方向で調整したい旨発言があった。